

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：16102

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20835

研究課題名（和文）社会に開かれた教育課程を見据えたシビックプライド論による地域形成教育の実践と検証

研究課題名（英文）Practice and verification of community-building education based on civic pride theory with a perspective on curriculum open to society

研究代表者

伊藤 直之（Ito, Naoyuki）

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：20390453

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、社会に開かれた教育課程の実現を見据え、地域に暮らす人々が自発的に地域への愛着を育むべきとするシビックプライド理論に基づき、学校における教科教育と実社会で展開する社会教育の連携のあり方について検討し、両者の接続を図った地域社会形成教育プログラムを開発・実践し、その効果を検証することを目的とした。本研究では、教科教育学と社会教育学、工学・経済学との共同研究を通して、学校教育と社会教育の連携を模索した。複数の実践例を通して、地域に暮らす生活者と外部者の交流を図ることで、生活者には見えにくい気づきと、外部者のさらなる訪問誘発というWin-Winの関係が生み出されることを明らかにできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、異なる親学問を背景にした研究者が協働研究体制を築くことによって、既存の学問体系のブレイクスルーを試みた点にある。これまでの教育学は、社会が大きく変化する中で、社会変革へのインパクトを持つ教育の仕組みや対処を十分に提案できていなかった。それに対して、本研究は、子どもたちの変化のみならず、地域の変化も視野に入れることを提案した。さらに、本研究が第一義に考えるシビックプライドの成果が、多様性と包摂性を担保できることで、持続可能な地域社会構築の契機となり得ることを確認できた。本研究は、学際的アプローチと、豊かな教育実践を通して多様性と包摂性を地域に還元させた点で学術的・社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：Based on the Civic Pride Theory, which states that people living in a local community should voluntarily become attached to the community, this study examined how the curriculum in schools and social education in the real world should be linked, and developed and implemented a community building education programme that connected the two. The aim was to develop and put into practice a programme of community build education that connects the two, and to verify its effectiveness. In this study, the collaboration between school education and social education was explored through joint research with subject pedagogy, social pedagogy, engineering and economics. Through several examples of practice, we could clarify that a win-win relationship between actors living in the community and outsiders can be created through interaction between local actors, which is difficult for them to see, and induce outsiders to visit further.

研究分野：教科教育学

キーワード：シビックプライド 多様性 包摂性 学校教育 社会教育 まちづくり 社会科教育 フットパス

## 1. 研究開始当初の背景

「シビックプライド(Civic Pride)」とは、主に工学建築分野で用いられてきた考え方であり、市民が都市や地域に対して持つ自負と愛着である<sup>1)</sup>。近年では、工学のみならず、行政など多方面で地方創生と関わって語られることが増えてきた。

「シビックプライド」を大切に考えているのは、学校教育関係者も同様である。ところが、学校における一つの教科、例えば、社会科の授業で「社会参加」や「主権者育成」などの類似の目標を掲げても、当然のことながらその目標達成は学校のなかだけでは完結しない。それは学校の外に出て、社会に関わってこそ、より実質的に醸成されるものであろうし、子どもだけでなく、大人になってこそ、実質的に開花することが求められるものであろう。

一方で、社会教育の分野でも、次代を担う子どもたちに対して「どのような資質を育むのか」という目標を共有し、地域社会と学校が協働<sup>2)</sup>することが求められている。まさに、「シビックプライド」は資質そのものであり、地域社会と学校が共有可能な目標である。そして、学校における教科の授業(特に社会科)においても寄与できる目標である。教科教育と社会教育は「シビックプライド」育成における両輪として機能し、“社会に開かれた教育課程”を拓く可能性を秘めている。

さらに、工学や経済学分野では、まちづくりや地域再生などの研究的課題に取り組む過程で、研究者間や行政などで「シビックプライド」が関心を集めており、対象を大人から子どもへと拡大させることで、学校教育への関与の機会が増えている。

上記のような背景を受けて本研究を構想した。

1)シビックプライド研究会編『シビックプライド 都市のコミュニケーションをデザインする』宣伝会議、2008年。

2)中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」平成27年12月21日。

## 2. 研究の目的

本研究では、教科教育の枠にとどまるのではなく、むしろ学校における授業を中継点とみなして、「シビックプライド」という観点から、“子どもと学校教師(学校教育)”、“住民と社会教育施設(社会教育)”、“行政とまちづくり(工学・経済学)”という三者のつながりを探索していく。そして、世界における社会教育と学校教育の交錯の事例から示唆を得ながら、地域の担い手としての「シビックプライド」を育む連携教育プログラムを開発・実践し、子どもたちにとっての教育的効果や意義に加えて、各地域にとっての環境的・経済的意義と課題をふまえて、改善していくことを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究では、2020年度から22年度にわたって、以下の方法に沿って展開する。

(1)教科教育学者としての研究代表者が、隣接する諸科学(社会教育学・工学・経済学)の研究分担者と学際的な協働研究体制を構築し、共通のテーマである「シビックプライド」に対する各分野からのアプローチの現状と課題を指摘し、学校における授業と、社会教育施設における生涯学習活動をどのようにつないでいくか、接続のあり方を議論する。

(2)研究代表者・分担者の近隣地域における学校や社会教育施設、教師や子どもたち、地域住民との交流活動に対する調査を通して、学校における教科の授業に期待すること、社会教育施設で展開されている生涯学習に期待すること、地域住民が望んでいる街のあり方などを探っていく、これらの接点を抽出する。

(3)比較参照事例として、欧州におけるまちづくりと学校教育をクロスした教育実践例を訪問調査し、そこで展開する学校教育と社会教育の連携取り組みについて、授業観察や聞き取り調査によって明らかにする。そして、まちづくりのプロセスと教育の関係性における特徴や課題を抽出し、我が国への適用の可否について検討する。

(4)小・中・高等学校における学校教育と、社会教育とが連携した教育プログラムを開発し、学校教師や社会教育サポーターとの協働で実践を進める。

(5)実践した教育プログラムについて、同意を得た上でのアンケート調査結果から教育上の成果と課題を抽出し、各地域に対してどのような環境的・経済的な影響をもたらす可能性があるか、それを検証するための評価方略について、議論する。

## 4. 研究成果

### (1)理論的根拠の明確化

従来までは学習指導要領の「公民的資質」とシビックプライドの異同が不明確であることが課題であった。学習指導要領では「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」という教育内容に象徴されるように、模範とされるような人物への追体験や感情移入を通して「努力」や「苦心」を理解することが期待されているが、地域住民として育まれる態度の内実は、地域の開発をアプリ

オリと見なしたり、暗黙のうちにそれへの同調へと導いているという点で一元的といわざるを得ない点がある。そこで想定されている「愛情」や「誇り」の育成という目標は、一元的な態度の育成へと向かっている点に特徴がある。

それに対して、本研究では伊藤香織氏の「シビックプライド」論を手がかりにして、「シビックプライド教育」において目指される目標は地域に対する愛着や誇りに他ならないが、愛着や誇りの内実は、教育者の側にあらかじめ措定されるものではなく、学習者や参加者の側に自ら芽生えるものであると定義した。それによって目標の多様性を担保しようとした。シビックプライド醸成の要諦は、いかにコミュニケーションをつくるかにあると考えたためである。上記の理論的根拠を学校教育の文脈に重ねたときに、想起されるのは児童生徒・学校と外部者の交流である。その理論的根拠は以下に示す国内外の事例においても適用を確認できた。

#### (2) 海外調査からの知見

上記の理論的根拠は次の海外調査によっても補強された。研究期間中は COVID-19 の影響で思うような海外調査を実行できなかったが、諸々の制約の緩和が始まった 2023 年以降に海外調査を行った。

学校教育側を対象とする研究代表者（伊藤）は 2023 年 3 月に英国ロンドンを訪問し、東部ストラトフォード地区で学校地理教育の地域巡検授業の外部委託を担うジョンウィドウソン氏と面会し、彼の展開する教育プログラムを参観したうえでインタビューを行った。その結果、地域巡検授業では、英国内他所からやってきた訪問者（生徒）とストラトフォード居住者との間で、質問調査活動が含まれており、それゆえに、シビックプライド教育の方法は、教育活動として、異なる属性を持つ参加者による「多様」な接点をつくり、交流を促すことであることが確認できた。

社会教育側を対象とする研究分担者（山川）は 2023 年 9 月にコペンハーゲン成人教育センター（KVUC）を訪問し、デンマークの成人教育政策の中心ともいえる職業市場と成人教育、人材育成との関係について、関係者に聞き取りを行った。また、英国ロンドンではロンドン復興委員会の下で 2021 年度より進行しつつある High Streets for All Challenge の一事例であるストラトフォード地区を調査し、Local Social Workbook を手がかりにして、ロンドンオリンピック、covid-19 を経て、街が停滞したり 分断したりする中で、コミュニティ・エンゲージメントによる復興が喫緊の課題であり、多様なセクターが協働で課題解決をなそうと藻掻いている様子を把握した。

代表者と分担者で研究アプローチが異なりつつも、同一の地域（ストラトフォード）を対象とする点に、さらなる考察の交錯点を見いだすことができた。

#### (3) 国内での実践

熊本で研究を展開した研究分担者（田中）は、未来のくまもとを創る「小学校高学年」をターゲットに、市内の「高校生」たちと商店街、大学、市役所、民間企業が協働し、熊本市中心部「まちなか」の歴史、観光、食（文化）を学び、まちなかに居場所をつくる「マチノガッコウ」プロジェクトに取り組んだ。このプロジェクトには異なる学校種の児童・生徒の交流が鍵となり、外部者とのコミュニケーションの場を創出することで多様なシビックプライド醸成に寄与しようとしている。

佐賀で研究を展開した研究分担者（戸田）は、佐賀新聞社が協賛企業とともに主催する「さが未来発見塾」事業に関わり、地域に未来を担う人づくりを主眼に、自治体単位で異なる学校に通う中学・高校生が集って学び合うワークショップを県内各所で展開した。その詳細はウェブサイト（<https://www.saga-s.co.jp/feature/miraihakken/index>）で確認できる（2024 年 6 月 20 日確認）。

#### (4) 社会への成果発信

成果発表の具体は研究代表者・分担者が各所属の学会等で行ったが、学会には位置づけられない主要なものとして 2023 年 8 月 25 日に開催された第 71 回日本 PTA 全国研究大会（第 53 回日本 PTA 中国ブロック研究大会）広島大会のなかで、研究分担者（山川）が第 3 分科会「地域連携」に関与し、基調講演「地域とともにある学校 シビックプライドによる架橋」を行うとともに、パネルディスカッション「学校教育と地域の連携をどう進めていくか～子どもの成長を地域と共に～」をコーディネートした。そのなかで本研究の基盤をなすシビックプライドについて多くの聴衆に発信がされたことを付記しておく。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 伊藤直之・戸田順一郎	4. 巻 3
2. 論文標題 社会に開かれた教育課程としてのフットパスコースづくり学習の試み 小学校におけるシビックプライド論を用いた子どもたちと外部者の出会いのデザイン	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会系教科教育学論叢	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山川 肖美	4. 巻 78-2
2. 論文標題 まちに芽吹く新しい学びの種：ひととひと、ひととまち、まちとまちの結節点	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会教育	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤直之	4. 巻 第1204号
2. 論文標題 多様性と包摂性のある地域づくり教育～「令和の日本型学校教育」を受けて～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 徳島県教育会『徳島教育』	6. 最初と最後の頁 pp.6-8.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中尚人	4. 巻 Vol.11
2. 論文標題 上天草市におけるシビックプライドを基盤とした地域課題解決の実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 熊本大学政策研究	6. 最初と最後の頁 pp.5 - 14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山川肖美	4. 巻 第54号
2. 論文標題 まちづくりとファシリテーション 学びと活動の好循環を生み続けるために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生涯学習インストラクター・コーディネーター機関紙	6. 最初と最後の頁 2(1頁のみ)
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山川肖美	4. 巻 なし
2. 論文標題 3つの“共”を紡ぐ場としての祇園公民館と担い手となるみなさんへの期待	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島市祇園公民館閉館50周年記念誌	6. 最初と最後の頁 6(1頁のみ)
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 2件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 山川 肖美
2. 発表標題 学びと地域づくりの循環における学習支援者の役割 - 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」の社会的成果の検証 -
3. 学会等名 日本生涯教育学会第43回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中尚人
2. 発表標題 コミュニティアークाइブとしての復興誌づくりに関する考察
3. 学会等名 第39回日本自然災害学会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山川 肖美
2. 発表標題 多様化する公民館と期待される役割
3. 学会等名 2021 年度 日本地域政策学会九州沖縄支部総会・フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤直之, 光山明典
2. 発表標題 吟味する力を育む地理的分野の授業開発と実践 - 中学校社会科における市民としての基礎力育成をめざして -
3. 学会等名 2021年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山川 肖美
2. 発表標題 地域とともにある学校 シビックプライドによる架橋
3. 学会等名 第71回日本PTA全国研究大会広島大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 山川肖美「生涯学習論 - 人と社会の幸せを紡ぐ学びの創造 - 」(分担執筆pp.57-77)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 284
3. 書名 木村恵子・谷口直隆・宮崎康子編著『教育学のグラデーションー教育学科の歩き方 - 』	

1. 著者名 渡邊信之・伊藤直之「エシカル消費を促す地理授業の国際協働開発と実践」pp.155-171	4. 発行年 2022年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 伊藤直之編著『地理歴史授業の国際協働開発と教師への普及』	

1. 著者名 伊藤直之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 地理科地理と市民科地理の教育課程編成論比較研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山川 肖美 (Yamakawa Ayumi)  (40284137)	広島修道大学・人文学部・教授  (35404)	
研究分担者	田中 尚人 (Tanaka Naoto)  (60311742)	熊本大学・熊本創生推進機構・准教授  (17401)	
研究分担者	戸田 順一郎 (Toda Junichiro)  (80437805)	西南学院大学・商学部・教授  (37105)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------